平成３０年度「地方創生カレッジ事業　ｅラーニングコンテンツ制作」
シラバス

講座名	失敗事例に学ぶ文化と地方創生
講座カテゴリ	事業改善ケーススタディ
講師名	後正武
講座概要	私達は、成功事例のよい所を見て、その真似をしようとしますが、その割に失敗からは学ぶことをしません。失敗の経験は社会的に共有されにくいのです。私達が、原因を検討し学ぶことより、とかく責任追及を優先しがちだからです。結果として似たような失敗がくり返されます。 「地域起こし」の分野でも、私達は多くの成功と共に、数々の失敗をくり返してきました。 地域起こしと言うと、私達はとかく目に見えるハコモノや、名前のつく投資案件（ハードウェア）に目をうばわれがちですが、それだけでは成功の保証はありません。「市場をつくり出す」ということは、ユーザーのビヘイビア（ソフトウェア）を変えるということ、つまり「文化を創り出す」ことにほかなりません。しかし、そのためにはまず、価値の提供者自身の考え方や行動様式も変わっていかねばなりません。これもまた地方の文化を創生することにつながります。 本講座では、「失敗学」という独立しつつあるジャンルの概要を理解し、その上で失敗と成功の具体的な事例をとりあげながら、失敗をさけるための着眼点や、文化が成立し定着するための要件と、そのためのプログラムの策定・推進のあり方を学習します。 *文化 … 文化人類学で扱う広義の文化、人間集団で共有される価値観や行動様式全体を言う

学習目標／受講で得られる知識・スキル・コンピタンス	・　失敗学・失敗の要因・背後の“からくり” ・　失敗の本質 ・　ハインリッヒの法則 ・　パーキンソンの法則 ・　ケース・スタディーの考え方（事例に学ぶ） ・　コンティンジェンシー、ロードマップとマイルストーン ・　ビジネス・システムの考え方 ・　組織の７S ・　組織の枠を越えたスキルと人材の導入 ・　バーナード組織の成立要件 ・　第３セクターのメカニズム ・　文化の創造の過程・育成の要件
想定受講者及び前提条件	地方創生について、関心のある方、学習経験がある方
試験方法及び修了条件	【試験方法】 ユニット毎の確認テスト（択一問題）および、ディスカッションにおける発言数と講義受講 【修了条件】 ユニット毎の確認テストで平均 70%以上の合格及び、講座毎のディスカッション最低発言回数、70%以上の講義視聴状況で評価を行い、講座修了を判定する
関連スキル※事例が含まれる場合、取材箇所も記載のこと	・シーガイア・葛巻町、城崎、境港 ・風車発電 ・ザウス等
他講座との関連	受講前に基盤編「人材マネジメント」、「論理思考」、「ビジネスモデル」を受講することをお薦めします。基盤編「地域産業の開発と運営～面的スケールアップのケーススタディ～」もあわせて学習すると理解が深まります。
講座の特徴	失敗の要因分析について、世の中で言われているような、表面的な原因のレベルにとどまらず、そこに横たわる本質的な問題について、 深く切り込む講座です。本講座を学んだ方は、地方創生において様々な思惑や、異なった目的を持つ人たちが、一見もっともらしいロジックで

	自らの利益を実現しようとするような場合、簡単に喝破するとともに具体的な改善案、対案を考える力が身につきます
学習深化のための取組み／工夫等	多方向授業の特徴を最大限活用し、自ら関係する地域、あるいは地域創生に携わった経験のある方は、その経験をディスカッションの中で積極的に発言し、他の履修生と意見交換を進めながら履修されることをお薦めします。
時間数	約　5 時間（イントロダクション、ユニット×4、まとめ） 各 1 時間 20 分×4
講座構成	イントロダクション 「事例に学ぶ」という考え方 表面の現象を見るのではなく、本質を学ぶことが肝要 <u>ユニット 1</u> 失敗学とは何か なぜ失敗学が役に立つか … 発展への鍵 失敗学の要諦 … 現象よりも要因を正しく理解する （なぜ失敗はくり返されるか） 失敗の背後の「からくり」に気付くこと 失敗に学び、失敗を活かすリーダーシップ … 責任追究よりも学習が大切 （要因のある検討・分析・理解・改善） <u>ユニット 2</u> 箱物をつくる vs 市場をつくる・文化をつくる 箱物に目が向く理由 … 大きなビジネス・システムを考えることの大切さ ハードウェアとソフトウェア…文化・定着 事例研究 リゾート法の問題の本質はどこにあったか 文化はどのようにつくられるか 組織の 7S とビジネス・システム

	ユニット３ 　風車発電の事例を考える 　　環境と経済の好循環のまちモデル事業 　　… つくば市の事例 　　ミルクとワインの町　葛巻市の風車の背景 ユニット４ 　お客様を呼び繁栄を持続するための処方箋 　　城崎・豊岡市の事例 　　境港市の事例 　　… 町おこしの成功と課題 まとめ 　　「失敗学と成功事例に学ぶ」文化と地方創生
講師紹介	**後正武** ビジネス・ブレークスルー大学大学院専任教授。東京大学法学部卒業。 ハーバード大学経営大学院にて MBA（ディスティンクション）取得。 新日本製鐵、マッキンゼー・アンド・カンパニー（プリンシパル・パートナー）、 ベイン・アンド・カンパニー取締役副社長／日本支社長を経て、1996 年東 京マネジメントコンサルタンツを設立し現職。ほとんどの産業分野において、 全社戦略-実行プログラムにいたる一連の組織課題を手がける。 『経営参謀の発想 法』『論理思考と発想の技術 』『意思決定のための分析の技術』 『あまりにやさしい会計の本』など著書多数。